

## 講演会及び研究集会の記録

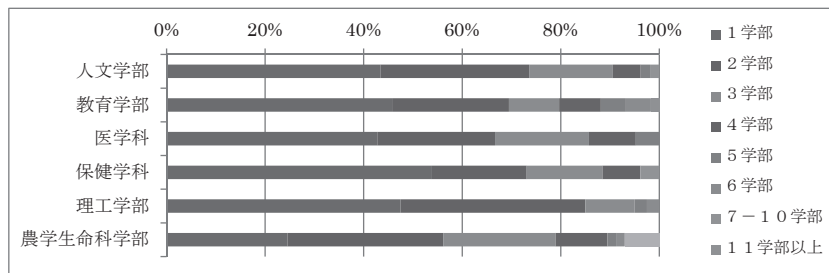
## 新入生質問紙調査 (JFS2011) の 単純集計結果について

21世紀教育センター高等教育研究開発室は、21世紀教育及び学士課程教育の改善・充実を図るため、新入生を対象とした質問紙調査を2011年7月下旬に実施しました。この調査では、各学部80名（ただし医学部については、医学科30名、保健学科50名）を無作為に抽出し、学務部教務課21世紀教育担当が質問紙を学生に直に配布・回収することになりました。回収率・数は、人文学部66.3%（53名）、教育学部73.8%（59名）、医学部医学科70.0%（21名）、医学部保健学科52.0%（26名）、理工学部50.0%（40名）、農学生命科学部64.0%（57名）で、全体では64.0%（256名）です。

質問紙は主に、学生の満足度、入試に関わる情報、高校での学習や生活状況、現在の学力に対する自己評価で構成されています。この中から、本報告では特に入試に関わる情報に着目し、関連する質問項目の単純集計結果を考察してみましょう。

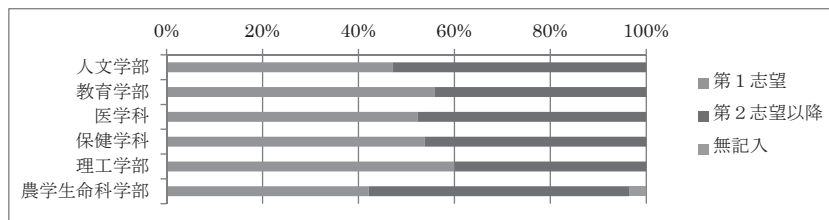
### 問10 あなたの大学志願と、受験の回数についておたずねします。

(1) あなたは本学と他大学を含めて、いくつの学部に入學願書を出しましたか。



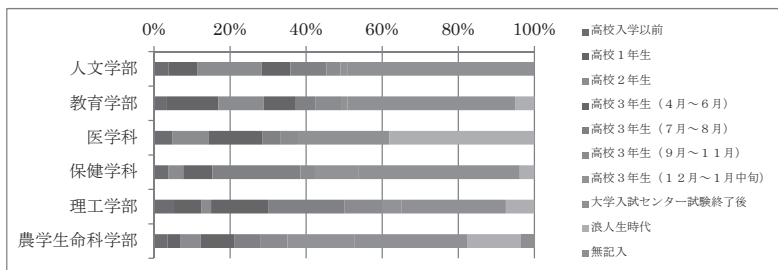
農生を除いた全ての学部で、5割程度の学生が専願（進学した学部のみに入學願書を提出している）で受験しています。推薦・AO入試で合格した学生は専願でしょうから、医学科で4割弱、他の学部で2割程度は必然的に専願になるはずですが、人文・教育・保健・理工では4割を遙かに超えているので、専願の学生が一般入試でも多数いると推測できます。それから、二つの学部に入願書を出した学生は国公立大学のみを受験していると思われるので、本学進学者の中で私立大学の併願者は（特に理工では）少数派でしょう。

### 問11 あなたの志望大学の中で、本学は何番目でしたか。



本学への進学を第1に希望した学生の割合は、理工で6割程度と最も高く、最も低い農生でも4割強で、不本意入学の学生が極端に多いということはありません。とはいえ、約半数の学生は第2志望以下で入学してきていることを忘れてはいけません。彼らにも本学に進学したことを誇りに思ってもらえるように、初年次の段階で特別なプログラムが必要だと思われます。

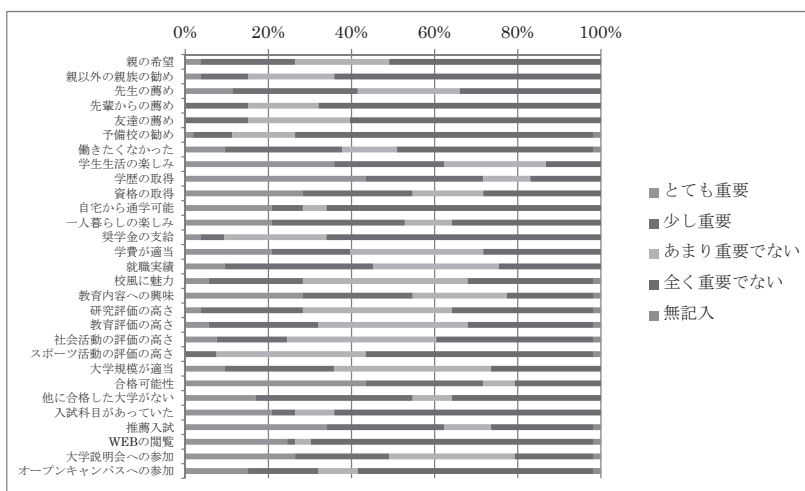
問14 あなたが本学の受験を決めたのはいつですか。



人文学部と教育学部に進学した学生の実に4割弱は、高校2年生までの段階で既に本学の受験を決めています。高校への広報活動やオープン・キャンパスの成果が現れているのかもしれませんが。また、医学や理工では高校3年生の早い段階（4月～6月）で受験を決定した学生が多く、興味深い結果といえます。大学入試センター試験終了後に本学の受験を決意した学生は、問20でも触れますが、合格可能性で判断したと思われる。

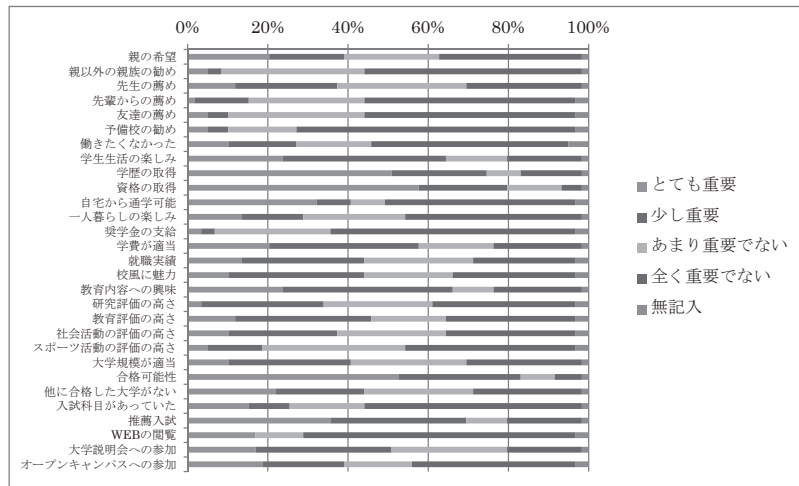
問20 あなたが本学に進学した理由として、次のことがらはどの程度重要でしたか。

人文学部



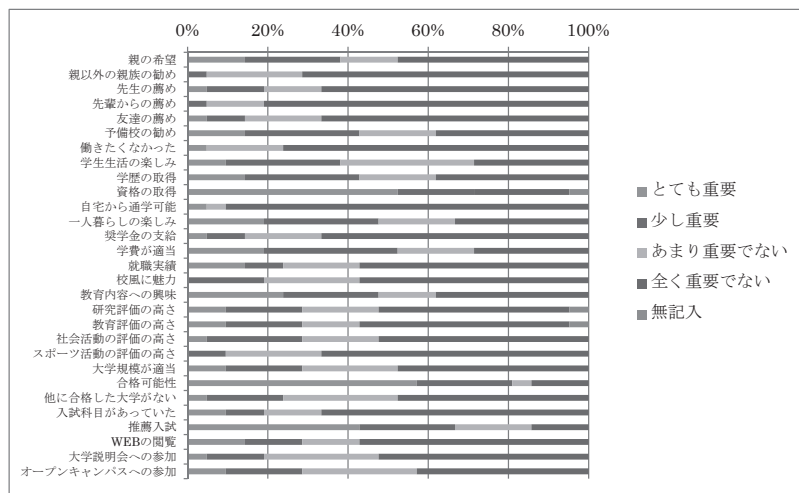
本学に進学した理由として、人文学部の学生が重要だった（「とても重要」＋「少し重要」）と回答した割合が最も高いことは、「合格可能性」です。ただし、このことは他の学部全てに共通することです。次に高いのは「学歴の取得」で、「推薦入試」、「学生生活の楽しみ」が続きます。学生生活や一人暮らしなどの楽しみを重要視した点は、他と異なる人文学部の特徴になっています。加えて、大学説明会やオープン・キャンパスへの参加も、他と比べて高くなっています。この結果は、先述したように、高校2年生までに本学の受験を決意した学生が多いためと思われる。

## 教育学部



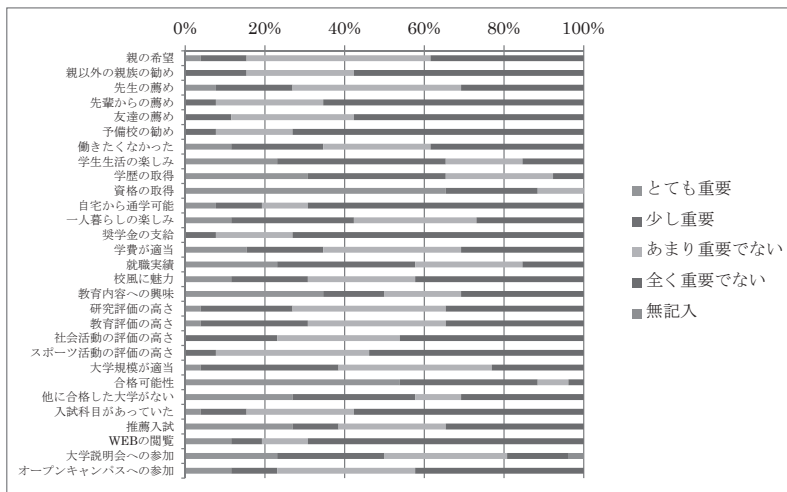
教育学部の学生が重要（「とても重要」+「少し重要」）と回答した割合が最も高いことは、人文学部と同じく、「合格可能性」です。次に割合が高いのは「資格の取得」と「学歴の取得」で、教員免許の取得を目的とした教員養成系学部の特徴といえます。加えて、「教育内容への興味」も比較的割合が高いことは、学部説明会の中味を再検討する際に意識しておくべきことでしょう。なお、教育学部も高校2年生までに本学の受験を決めた学生が多いので、大学説明会やオープン・キャンパスへの参加が高くなっています。

## 医学科



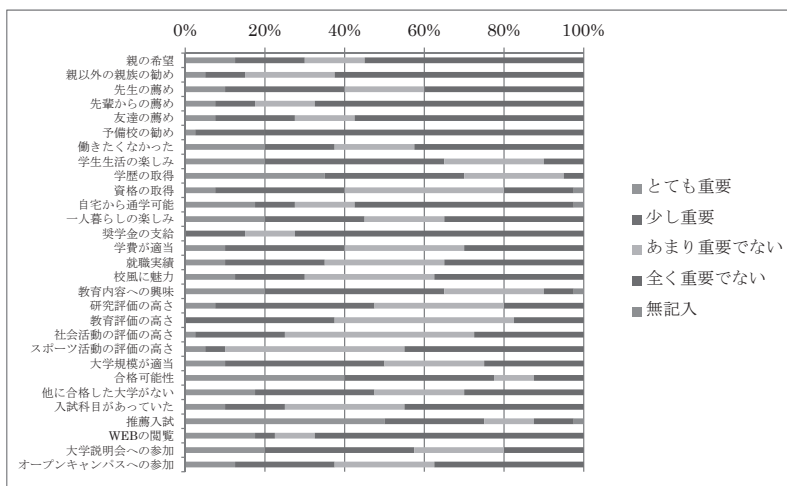
医学科の学生が重要（「とても重要」+「少し重要」）と答えた割合で「合格可能性」の次に高いことは、「資格の取得」で、教育学部と同じ理由です。「推薦入試」の割合も高いのは、AO入試を反映しています。また、「学費が適当」の割合が比較的高いのは、私立大学医学科の学費の高さが原因でしょう。それから、医学科の特徴として、「予備校の勧め」を重視したという回答が相対的に高いことがあります。このため、予備校との連携強化など、医学科独自の対応が必要かもしれません。

保健学科



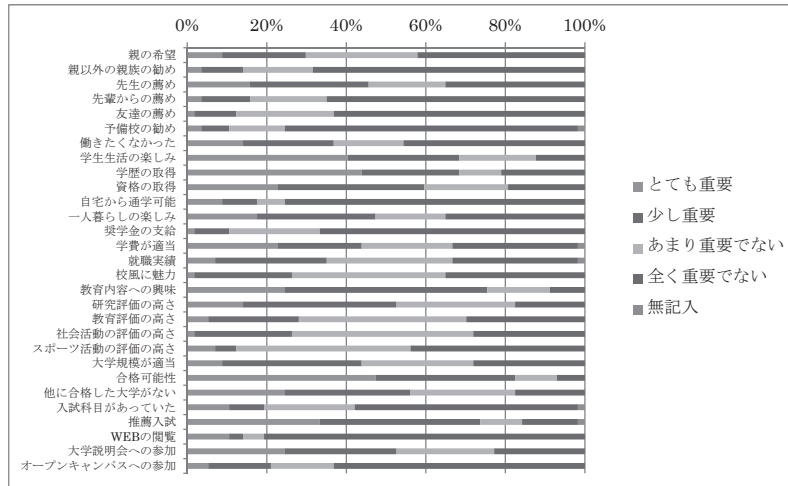
保健学科の学生は、「資格の取得」に重き（「とても重要」+「少し重要」）を置いたと答えた割合が、最も高くなっています。それから、割合が高いものに、「合格可能性」、「学歴の取得」、「学生生活の楽しみ」などが続きますが、この傾向は他の学部でも見られます。保健学科の特徴として、「就職実績」が相対的に重要視されていることがあります。従って、就職実績のアピールを一層強化していくべきでしょう。

理工学部



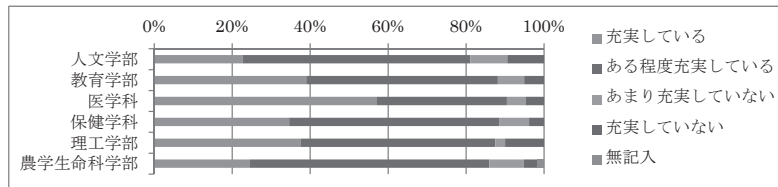
理工学部の学生は、「合格可能性」、「推薦入試」、「学歴の取得」、「学生生活の楽しみ」の順番で、重要（「とても重要」+「少し重要」）であると回答した割合が高くなっています。次に高いのが「教育内容への興味」ですが、それに加えて「研究評価の高さ」の割合も高いのは興味深い結果です。理工学部の学生の多くは、どのような研究が、どのレベルでできそうか、という観点で受験先を決めているのであれば、大学説明会などでの研究実績のアピールが有効かもしれません。

## 農学生命科学部



農学生命科学部の学生は、「教育内容への興味」と「研究評価の高さ」において、重要（「とても重要」＋「少し重要」）と回答した割合が、同様の傾向を示す理工学部よりもさらに高くなっています。よって、研究に直結した内容を学べるという点を、大学説明会などで強くアピールした方が良さそうです。また、理工学部と比べると、「資格の取得」の割合が高くなっています。教員免許に加えて、多様な資格への道を用意しておくべきでしょう。

## 問31 あなたの学生生活は充実していますか。



最後に大括りの質問ですが、学生生活は充実している（「充実している」＋「ある程度充実している」）という回答は、どの学部でも8割を超えていて、特に医学科では9割近くにまで達しています。大多数の学生が充実した学生生活を4年間通して過ごせるよう、教職員一体となって取り組んでいきましょう。

本稿で分析したデータは、母数が少ない中でのサンプル調査になっているため、データの信頼度は高いとは言いきれません。このため、本稿で指摘した内容には誤りがある恐れがあります。この点、なにとぞお許しください。